

レジ袋がなくなる日

中学二年 H・A

私の家の近くのスーパーマーケットは、最近、レジ袋の無料配布をやめました。どうしても欲しい場合は購入しなければなりません。ですからそのお店で買い物をする時は袋を持参して買い物に行くようになりました。

このようなことはお客さんにとっては一見面倒なことであり、サービスの低下のようにも思えます。なぜこのようなことをお店は実行したのでしょうか。

私は、夏休みにこのスーパーの食料品売り場の責任者の方に、

「このお店は七月一日からレジ袋を有料化しました。その際に今まで三種類のサイズがあったレジ袋を、お客さんがあまり使わないSサイズをなくして二種類にしました。レジ袋を購入する場合は、Mサイズは一枚三円、Lサイズは一枚五円をお支払い頂いています。」

というお話を伺うことが出来ました。

私がお話を伺ったのは八月の中旬で、レジ袋有料化の開始から約一か月半が経っていました。お店の方の話によると、レジ袋の有料化の理由は主に二つで、プラスチックごみの削減と、二酸化炭素による地球温暖化を防ぐことだそうです。私はまず、

「レジ袋が有料になったことでお店の売り上げに影響はありましたか。」

とたずねました。利用するお客さんがどう思っているのか反応が知りたかったからです。お店の方は、

「レジ袋が有料になったからといって苦情が来たり、お客さんが少なくなりましたことは特にありません。」
と答えてくれました。

この店では、毎日平均五千人の買い物客が来ているそうですが、レジ袋を有料化してから、今では約七十五パーセントの人が自分で

袋を持参してきているそうです。

レジ袋の有料化が、お客さんの減少につながってはいないことが私には意外でした。このスーパーは駅ビルにあり、通勤帰りの人や電車を利用する人が多いと思ったので、マイバッグをあらかじめ用意して買い物に行く人は少ないだろうと思ったからです。

しかし、レジ袋をもらえないからという理由によって、そのお店で買い物控えるという人は、実際はほとんどいなかったのです。レジ袋とはお店から家まで買った物を運ぶ時だけに使うものであり、その後は、ほとんどごみになってしまいます。多くの人が、実は、「レジ袋はいらない。」と感じているということが、この結果からわかると思います。また、特に苦情もなかったということは、買い物をする時は前もってマイバッグを持参することへの私たちの意識が高まってきていて、小さく折り畳んだマイバッグをいつも持っている人も多いのかもしれない。

また、お話を伺ってみて他にもわかったことは、レジ袋の有料化の理由には地球温暖化が関係しているということです。レジ袋を作る過程で、原料を溶かしたり、形作ったりする際に、大量の二酸化炭素が発生するそうです。

「レジ袋の生産を減らすということは、ごみの減少だけではなく、二酸化炭素の発生を減らし、地球の温暖化抑制にも効果的な取り組みであるのです。」

と、お店の人は語ってくれました。このことも私にとっては意外なことでした。レジ袋と地球温暖化が結びついていいるとは思っていませんでした。

私はこのことから身近なプラスチックについて考えてみることにしました。

私はこの夏に、家族と沖縄の「美ら海水族館」に行きました。その時訪れた「ウミガメ館」には衝撃的な写真がありました。死んだウミガメの胃の中から大量のプラスチックごみが見つかったのです。ニュースでもクジラの体の中からも大量のプラスチックごみが見つかったり、ウミガメの鼻にストローが突き刺さったりするなど、海の中の動物が被害を受けていることが報道されています。海の中の動物は海に浮かんでいるプラスチックごみを餌だと勘違いして、食べてしまい、その結果死んでしまいます。

実は、プラスチックごみは人間の体にもたまっています、日本も含む世界八か国の人便を調べたところ、全員の便からプラスチックごみが検出されたそうです。魚が五ミリ以下のマイクロプラスチックを食べ、その魚を人間が食べてしまうからさうです。最近は一週間に一人平均五グラムのプラスチックを体に取り入れていることがわかりました。

一体、海のプラスチックごみはどこからきているのでしょうか。海岸でポイ捨てされたごみもありますが、多くは街中で無造作に捨てられた物や、外に置いておいたごみが、風や雨により川に入り、川の流れに乗って、海に流れていくのです。プラスチックごみは分解されないうままどんどん海岸にたまり、海を汚すことになるのです。

世界では年間約八百万トンものプラスチックがごみとして海に流れ込んでいるようです。八百万トンはあまりイメージがつかないと思いますが、ジャンボジェット機五万機分、東京スカイツリーおよそ二百二十二基分になります。一年間でこんなにプラスチックごみが海に流れていることに、とても驚きました。



プラスチックごみを少しでも減らすため、最近ではプラスチックのストローから、環境に優しい紙製のストローへと変更する動きも見られます。私は、沖縄のホテルのレストランで初めて紙製のストローを体験しました。それは少し太く、固く、口に入れた時、違和感がありました。しかしジュースを飲んだ時にはプラスチックのストローとほとんど違いは感じられませんでした。

私たちに今できることは、ごみをポイ捨てしないことや、買い物に行くときはマイバッグを持参することです。ごみになるようなプラスチック製品を、意識して使わないことです。私たち一人一人が意識してできることを、これから実践していく必要があると私は思います。

先ほどのスーパーマーケットの方は最後にこう言っていました。「百パーセントのお客様がマイバッグ持参でお買い物に来てくださることが私たちの目標です。」と。

果たして「レジ袋がなくなる日」は来るのでしょうか。昔は買い物に行く時は買い物かごを持って行ったと祖母から聞きました。本来、レジ袋などというものは私たちの生活になかった物なのです。それを私たちは手軽さ、便利さを追求するあまり、地球の環境に背を向けて作り続け、使ってきました。今、そのことを見つめ直し、もう一度、ひと昔前に戻ることも大切なのではないのでしょうか。

再び、「レジ袋がなくなる日」が来てほしいです。また、一刻でも早く現在の汚れた海が豊かな海に戻り、世界の環境が良くなることを私は願っています。

参考文献

・NHKホームページ 「1からわかる！プラスチックごみ問題」